

「山上の垂訓1」

マタイによる福音書の「山上の垂訓」は有名であるが、これだけの教えを一度に一箇所で語られたと思うのには無理がある。マタイは歴史的、時間的順序を超越して、続く8~9章も含め、主イエスのお働きの総合的な記事として、「山上の垂訓」を書いているのである。

主イエスは全能の神が何を喜ばれるかを知っておられた。その神に創られた人間の幸せは、実は神に喜ばれることなのである。その意味で、主イエスが語られた「山上の垂訓」天国憲法は、この世の幸いとは真逆である。また、その厳しさにおいて、その愛の実行において、人類の道德標準において最高の律法である。そしてその狙いは、人が何をするか(doing)ではなくて、その人の本質はどうか、心にあるものは何であるか(being)である。

この「山上の垂訓」に照らされるとき、人は自分の内面の汚れに気づかせられるのである。それは私たちを唯一の救い、キリストの福音の救いに追いやり、ご聖霊により、魂の本質、奥底までを聖めて頂き、「山上の垂訓」をご聖霊により自由に生きるようにするためである。

[聖書の学び]

語られた語順は、「なんと幸いだろう！○○○○の者は」である。

I、神に喜ばれる9つの本当の幸い (最後の11節を10節に入れて8つの幸いと数える人も多い)

詩篇の1編の冒頭で「幸いな事よ、～は」というのと同じ言い方で語られている。

(当時の外からの圧迫や金銭的に搾取され、貧しくされたり、怯えたり、苦しみが多い人々に)

1、天地の創造者である神様に喜ばれ、祝福される人の心。

(富んでいても心が貧しい人もいたので、物理的な貧富ではない)

① 心の貧しい者 …… この世において自分の貧しさを自覚した、心砕かれた者 (v3)

↓ (ロ-マ7:24 p308)

神様に助けを求める人————→ 天の御国を頂くことができる。

② 悲しむ者 …… 自分の罪を悲しむ者 (IIコリント7:9,10 p363) (v4)

↓ この世の不正や、虚しさを見て悲しむ者。

自分の内側の弱さに泣く人————→ 慰められる

③ 柔和な者 …… 自分の無力さを認め、御霊により自我や自己主張から解放された者

↓ (ガラテヤ5:23 p382) (v5)

神に依り頼むことを知っている者————→ 地を受け継ぐ (押し負けない者は結局多くの物を得る)

④義に飢え渴く者 …… 自分では義に生きられないことを知り、神の義を求める人

↓

(ローマ3:23,24 p302)

(v6)

必ず神との正しい関係に導かれる————→満ち足りる

2、神様に喜ばれる人の、他人に対する心。

①あわれみ深い …… 神ご自身の性質を知り、創造者である神様に期待する。(v7)

↑

(詩篇111:4 旧約1054)

神のあわれみを受けた者 → あわれみを受ける

②心のきよい者 …… 道徳的清さだけではない。心をつくして神を愛する者 (v8)

↑

聖霊により、二心のない者 (内側の性質と外側が合致する者) にされる

(Iヨハネ1:9 p478)

十字架により聖別された者 → 神を見る。

③平和を作る者…… 破れた関係の修復に努め、争いに満ちた世に和解をもたらす者(v9)

↑

十字架の主が平和の使者として用いられる → 神の子と呼ばれる

3、神に喜ばれる人は価値基準と異なるため、他人から疎^{うと}まれたり、阻害されたりする

①義のために迫害されている者…… 永遠の視点で神の国での報いに目を向ける。(v10)

↓

神様の助けを頂く以外に生きられない————→ 天の御国を頂くことができる。

②キリストの御名のために苦しみを受ける者……キリストの絶大な価値を知り一切を損と思う

↓ (マタイ28:20)

(v11)

キリストご自身が共におられる————→天の御国における大きな報いがある

* **ディスカッション** (心を開いて話し合ってみましょう)

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。

- 1) 主イエスは「9つの幸い」について教えられましたが、どの教えが心に残りましたか。
- 2) この教えに関して、自分の体験や、他の人の事でも思い当たることはあるでしょうか。

Ⅱ、厳しさにおいて旧約の律法に遙かに勝る

(マタイ12:38～45)

Ⅲ、キリストの福音以外に山上の垂訓を生きられない (マタイ12:46～50)

* **ディスカッション** (心を開いて話し合ってみましょう)

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。